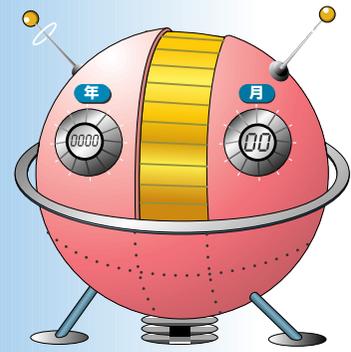


2 大和川と地域のあゆみ



大和川をとりまく地域のあゆみは、どのようなものだったのかな。調べてみよう。



(1) 昔の大阪平野と大和川

大阪平野の移り変わり

大和川は奈良ぼん地の水を集め、大阪府との境にある亀の瀬を通り、大阪平野に流れ出ています。

この大和川が流れる大阪平野について、昔のようすを調べてみましょう。

今からおよそ5000～4000年前、大阪平野の北の部分（河内平野）は、一面が水におおわれた入り江になっていました。そして、大和川や淀川がこの入り江に流れこんでいました。

長い年月の間に、大和川や淀川の川の流れが運ぶ土やすなによって、しだいに入り江がうめたてられました。このようにしてできたのが河内平野です。

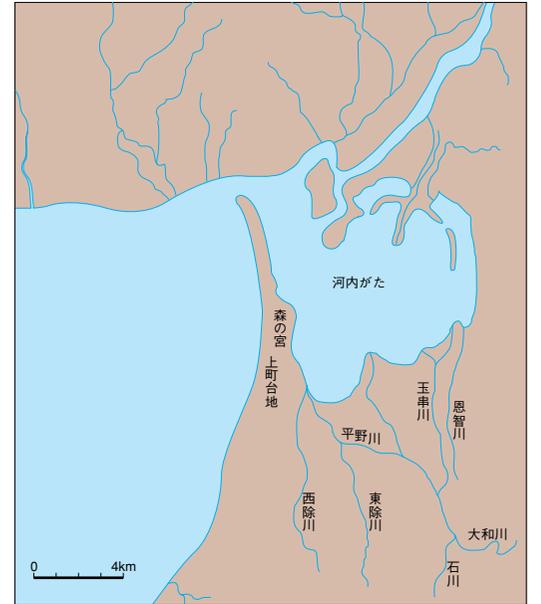
大和川や淀川が運んできた土やすなは、米作りに適^{でき}していて、人びとにとって住みよいところだったようです。

入り江
海や湖が陸地に入りこんだところ。

▼①5000～4000年前の大阪平野

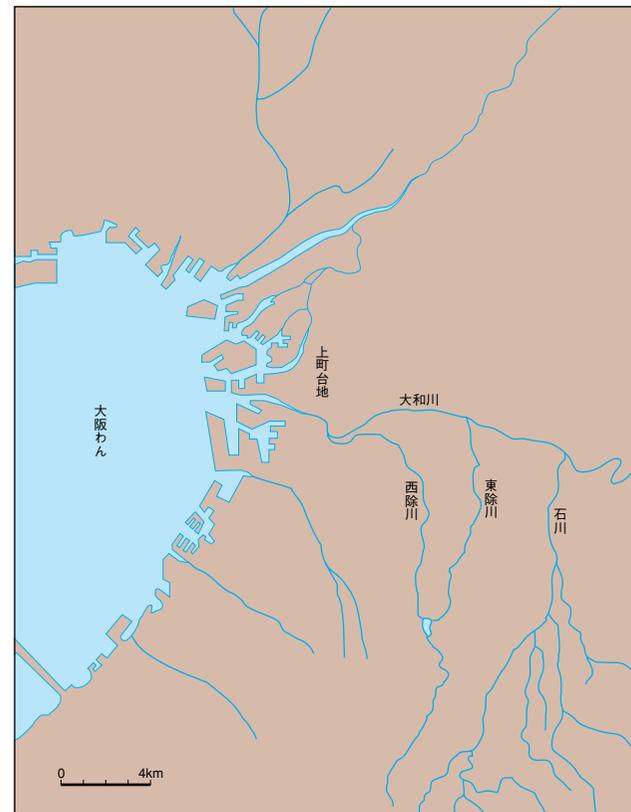


▼②3000～2000年前の大阪平野

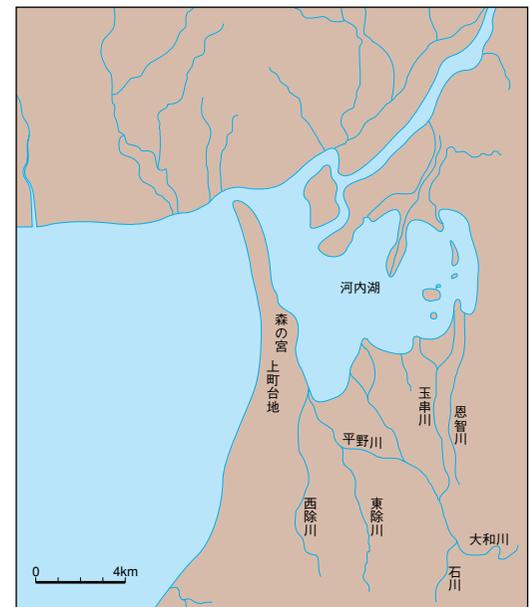


わたしのまちは、昔は海や湖だったのね。

▼今の大阪平野と大和川



▼③1800～1600年前の大阪平野



みなさんが住んでいるところは、昔はどんなようすだったのかな？



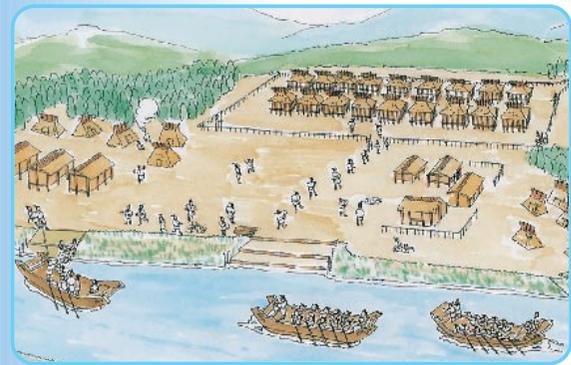
(①～③は、『純大阪平野発達史』をもとに作成)

古墳
天皇や有力者などの墓。土を盛りあげて築かれたものが多い。



▲高井田古墳の舟のへき画

▼難波津の想像図（今の大阪市北浜あたりと考えられています。）



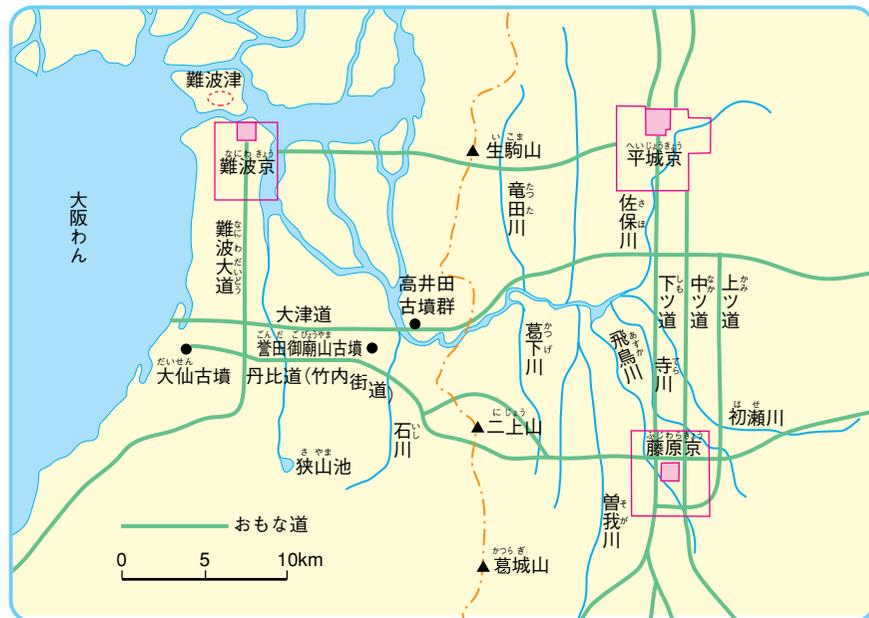
官道
国が整備した道で、今の国道のこと。大津道、丹比道（竹内街道）などがありました。

(2) 交通路としての大和川

大昔から大和川は交通路として利用されてきました。大阪府柏原市高井田にある古墳から、そのようすをえがいたと思われるへき画がみついています。へき画には、舟をあやつっているようすがえがかれています。

また、このころ、しだいに官道が整えられていきました。しかし、大和川は古代日本のげん関口であった大阪わんと、奈良ぼん地を結んだ川の道として、大事なはたらきをもっていました。

奈良の飛鳥地方に都があった時代、中国の使者が瀬戸内海を通過して難波津に入り、大和川をさかのぼって飛鳥の都に入ると伝えられています。



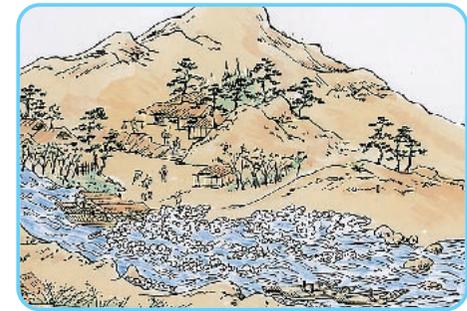
▲大和川と古代の交通路

〔大阪春秋第40号〕などをもとに作成

大和川の川すじは、昔と今とでは大きく変わっています。しかし、奈良ぼん地と大阪平野とを結ぶ交通路としての役わりは、100年ほど前まで、変わらずに続いていました。

今から300年ほど前、大阪は、たくさんの品物が流通する中心地として栄えていました。奈良では大和川を利用して大阪や堺などとの間で、船を使ってさかんに人や品物が行ききしていました。しかし、奈良と大阪の境にあたる亀の瀬は、浅瀬になっていて岩も多いので船が通行できず、品物は亀の瀬で奈良側、大阪側の船に積みかえられて、奈良や大阪に運ばれました。

また、使われた船は亀の瀬を境として、奈良側では魚梁船、大阪側では柏原船、剣先船などとよばれていました。



▲300年ほど前の亀の瀬のようす（「大和名所図絵」より作成）

大和川を運こうしていた船

	柏原船	剣先船	魚梁船
運こうしていた地域	大阪から柏原	大阪から亀の瀬	奈良から亀の瀬
運んでいた品物	米、油、ほしか、綿、塩、しょう油、炭など	油かす、ほしかなどの肥料や塩など	そら豆、小麦、なたね油、ごぼう、そうめんなど
船の大きさ	長さ約12m、はば約2m	長さ約21m、はば約2m	長さ約15m、はば約1.8m

しかし、今から100年ほど前からは、道路や鉄道の発達とともに、水運としての大和川の役わりは、小さなものになっていきました。

●大和川の川すじの話は、次の「3 大和川を治める」のコーナーで勉強します。

品物の積みかえはたいへんな仕事で、たくさんの人が作業したんだって。



100年前の船の時こく表によると、今の奈良県田原本町から大阪市内まで、13時間かかったそうよ。



こ だい ぶん か (3) 古代の文化と大和川

1 古代の文化を運ぶ大和川



▲外国の文化が伝わった道すじ(シルクロード)

平城京

中国の都にならってつくられました。ここでは、国の政治が行われ、役人や市場でものを売り買いする人びとなどでにぎわいました。

▼平城京の復元も型



▼復元された朱雀門



古代の大阪わんを古代日本のげんかんぐちにたとえると、瀬戸内海は家の門からげん関までの小道、大和川は家の各部屋を結ぶろうかと考えられます。そして、遠く中国や朝鮮など

の外国から、瀬戸内海や西日本を通過して、漢字や法りつなどのさまざまなものが古代の日本に入ってきました。それらは、大和川などを通じて奈良ぼん地にまで運ばれ、日本の古代文化をはぐくんでいきました。

2 奈良の都、平城京

今から1300年ほど前、奈良ぼん地の北に、大和川や官道を通じて運ばれたさまざまな文化のえいきょうを受けた都、平城京ができました。大きさは東西約5.8km、南北約4.8km。町なみは規則正しく区切られ、佐保川や秋篠川を利用した運河や、何本もの大きな道路が通り、なかでも南の羅城門と平城京の入り口の朱雀門を結ぶ朱雀大路は、長さ約3.7km、はば約70mもありました。

3 万葉集と大和川

万葉集には大和川の支流である佐保川や初瀬川(泊瀬川)、飛鳥川(明日香川)などをよんだ歌がたくさんあります。特に飛鳥川をよんだものが25首もあります。

『明日香川 明日も渡らむ 石橋の
遠き心は 思ほえぬかも』 (作者不明)

(明日香川の飛石をわたって、明日もあなたに会いに行くよ。飛石の石と石との間がはなれているように、心が遠くはなれたわけではないんだよ。) これは、石の橋をわたって、愛する人のところへ行ったことをよんだ歌です。



▲飛鳥川に残る石の橋

大阪で最大級のため池

大阪府大阪狭山市にある狭山池は、約1400年前に奈良の飛鳥に都があったころにつくられた、かんがい用のため池といわれています。池の面積は約36haあり、丘と丘の間のくぼんだ地形をうまく利用してつくられています。また、この池は西除川や東除川のみならず、今でも農業用水として使われています。



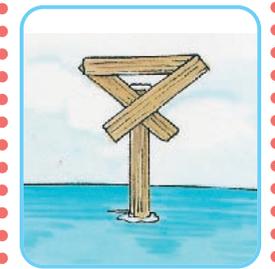
▲狭山池

万葉集

今から1200年以上前につくられた、日本ではじめての和歌集です。全部で4500首あまりの歌が集められています。

クイズ

◎下のマークは「みおつくし」といって、船が安全に通れるように立てられたひょうしきだよ。では、これを市のマークにしているところは、いったいどの市かな?



かんがい

水路をつくって、田畑に必要な水を引くこと。